

広川町第4次総合計画（改訂版）基本構想骨子（案）

※広川町第4次総合計画の基本的な枠組みは継承し、時代の変化に対応した計画とする。

はじめに（町長挨拶）

第1部 総論

第1章 総合計画とは？

- ◆総合計画策定の趣旨…社会構造の“変化”に対応していくための今後3年間の短期的な方針を示す。
- ◆計画の役割 …4つ（全町民・行政経営・最上位計画・町内外に尊重される）の“指針”である。
- ◆計画の構成と期間 …基本構想・基本計画・実施計画の3層構造／2021（令和3）年～2023（令和5）年の3年間の計画期間とする。
- ◆推進体制と進行管理 …庁内（課長級・係長以下）・庁外組織との関係性／行政評価（PDCA）の仕組みで計画を実現する。

第2章 広川町の概況（位置・地勢、周辺との関係性）

【位置・地勢、周辺との関係性】

- ◆広川町は、福岡県南部八女郡に位置し、東南は八女市と接し、西は筑後市、北は久留米市と接する耳納山系に囲まれた通称広川谷と呼ばれる広川盆地を形成する地域。
- ◆周辺市町村との関係では、久留米市、八女市、筑後市との通勤・通学流動が目立って多く、一体的な生活圏を形成している。
- ◆転入出の移動相手先としては、同じ生活圏域にある久留米市、八女市、筑後市が多く、その次に福岡市となっている。久留米市とはほぼ均衡しているものの、その他では転出超過となっている。

第3章 広川町を取り巻く“変化”

1 広川町を取り巻く時代の潮流（トレンド）

- | | |
|---------------------|----------------|
| ◆人口減少、少子・超高齢社会 | ◆社会経済（成長から成熟へ） |
| ◆高度情報ネットワーク化とグローバル化 | ◆環境に対する意識の変化 |
| ◆安全・安心に対する意識の高まり | ◆コミュニティの変容 |

2 広川町における喫緊の課題

- ◆人口減少と少子高齢化の進行 2060年には15,469人と2015年（平成27）年に対して76.6%に減少するとともに、65歳以上の割合は2015年の27.0%から2060年の37.5%、14歳以下の割合は2015年の14.4%から2060年には12.6%になると予想されている。
- ◆人口再生産力の低下 男女とも、生産活動を支え、子育て世代でもある20歳前後から50歳前後までの割合が低い。
- ◆生産年齢人口は縮小 15～64歳人口は2015年の11,723人から2060年7,707人に減少すると予想されている。
- ◆転出超過 2018年1年間の転入・転出では、男2018年（平成30年）では男女別にみると男性は79人の転出超過、女性は16人の転出超過であり、全体で95人の転出超過となっている。

3 これからの広川町に必要な視点

- ◆雇用の場と産業人材の確保による産業振興と持続可能なまちづくり
- ◆地域の人や資源の活用による個性豊かで時代変化に柔軟に対応するまちづくり

【キーワード】

人口減少・少子高齢化、地方創生、SDGs、協働によるまちづくり、Society5.0（AI・IoT・RPA等の活用）、健康寿命の延伸、地域共生社会、子育て支援、教育環境の充実（地域とともにある学校づくり・ICT教育）、産業振興と地域経済の好循環、雇用の場の確保及び就労のマッチング、関係人口、安全・安心、防災・減災、国道バイパス整備、交通の利便性、環境に対する意識の変化 等

4 町民の声（愛着や誇り、暮らしやすさ、町の取組に対する評価など） ※町民アンケート調査より

- ◆愛着度…『愛着を感じている』85.0%
- ◆暮らしやすさ…『暮らしやすい』80.0%
- ◆住み続けたい…『住み続けたい』71.6%
- ◆居住したくない理由…「道路事情や交通の便が悪い」「日常の買い物が不便」が多い。
- ◆町の取組に対する満足度…満足度が高い施策と低い施策の上位は以下のとおり。

満足度が高い：①自然環境の豊かさ、②水道の整備状況、③ごみ処理・リサイクルの状況、④保健サービス、⑤広報・広聴活動、⑥消防・防災体制

満足度が低い：①公共交通機関の利便性、②商業環境、③雇用就労対策、④観光の振興、⑤公園・緑地・水辺の整備状況、⑥道路の整備状況

- ◆町の取組の重要度…重要度が高い施策は以下のとおり。

重要度が高い：(1)医療環境、(2)防犯・交通安全体制、(3)消防・防災体制、(4)道路の整備状況、(5)公共交通機関の利便性、(6)小中学校などの学校教育

- ◆広川町を今後どのような特色のあるまちにすべきか…「人にやさしい保健・医療・福祉の充実した健康・福祉のまち（41.2%）」が最も多く、次いで「快適で安全・安心な居住環境の整備を優先する快適住環境のまち（34.0%）」、「子育て環境や子どもの保育・教育環境が充実した子育て・教育のまち（24.4%）」の順。
- ◆今後力を入れるべき行政施策…「高齢者施策（24.7%）」が最も多く、次いで「子育て環境（22.2%）」、「公共交通機関の利便性（19.5%）」、「医療環境（19.5%）」、「道路の整備状況（17.2%）」、「防犯・交通安全体制（14.8%）」、「小中学校などの学校教育（12.0%）」の順。

第2部 基本構想

第1章 将来像

1 まちづくりの理念

理念1 定住を進める	優れた交通条件。人、物、技術、情報の交流。雇用と活力を創出と定住を促進。
理念2 豊かに暮らす	第1次産業の振興。効率的な土地利用。町民の自主的活動と支えあい。自然との共生。
理念3 人材を育てる	町の特性と素材を磨きあげ、地域の個性をのびます。一人ひとりが生き生きと活動する。
理念4 地域を基礎に	町民と行政がコミュニティを基礎に協働。 個人、地域、団体、NPO、ボランティア、企業などによる公共サービスの充実。

※まちづくりの理念は、本町のまちづくりにおいて、長期にわたってすべての分野の基本となるものであり、いままでもこれからも大きく変わることはないと考え、現計画の理念を継承するものとします。

2 将来像 第4次総合計画(改訂版)の将来像を表現したキャッチフレーズ

次期計画：●●●●●● ●●●●●●●●●● ●●●●●●
～○○○○○○○○○○○○○○～

現計画：いまこそ集い 未来へつなごう 人と笑顔とふれあいのまち 広川
～安心と喜びを実感できるまちづくり～

※広川町第4次総合計画(改訂版)におけるキャッチフレーズを、審議会や住民アンケートの意見、これからの広川町に必要な視点を踏まえながら、必要に応じて改訂したいと考えています。

3 まちづくりの将来イメージ

◆ まちづくりの6つの基本施策

- 基本施策1 出会いと語らいのあるまち(協働・交流・人権尊重・行財政)
- 基本施策2 人と人が支え合うまち(健康・医療・福祉・子育て)
- 基本施策3 人が育つ、人を育てるまち(教育・文化)
- 基本施策4 人が集まり、働き、賑わうまち(産業・観光)
- 基本施策5 安全・安心でやすらぐまち(消防・防災・居住環境・都市基盤)
- 基本施策6 自然と共生する快適なまち(自然環境・上下水道・公園緑地)

4 目標人口(将来人口：国勢調査ベース)

国の推計【2025年 19,584人】 → 広川町人口ビジョン目標【2025年 19,667人】
【2045年 17,444人】 → 【2045年 18,756人】

第2章 土地利用の基本方針

◆土地利用に際しての共通視点と将来都市構造を示します。

第3章 施策の大綱

◆まちづくりの6つの基本施策ごとに、それぞれの大枠の取組方向を示します。

第4章 施策の体系

◆次期計画は、現計画に準拠して、まちづくりの6つの基本施策から構成します。

第5章 成果指標

◆まちづくりの6つの基本施策ごとに成果指標(アウトカム)を複数設定する。

※指標設定にあたっては、PDCAの視点から、町民にわかりやすく、毎年、達成度評価が可能な指標を選択します。

第3部 基本計画

第1章 重点プロジェクト[第2期広川町まち・ひと・しごと創生総合戦略]

- ◆【基本目標①】地域資源の可能性を広げて、安心して働けるようにする
- ◆【基本目標②】広川町とつながるひとを増やし、新しいひとの流れをつくる
- ◆【基本目標③】結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- ◆【基本目標④】時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守ることができる魅力的な地域をつくる

※目標人口の実現のための目標や施策の方向性、具体的な取組をまとめた「第2期広川町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を総合計画の中でも重点的に取り組むべき事業として位置付けます。

第2章 施策の展開

◆施策の体系に基づく基本目標、基本施策ごとの具体的な取組について整理します。

※基本施策は、現計画を基本に一部施策構成を修正します。

第3章 計画の推進

◆計画の推進体制や取組について整理します。